

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 1月21日 8:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000~42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,000~43,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000~20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000~160.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578~110.895

エリオット波動とは

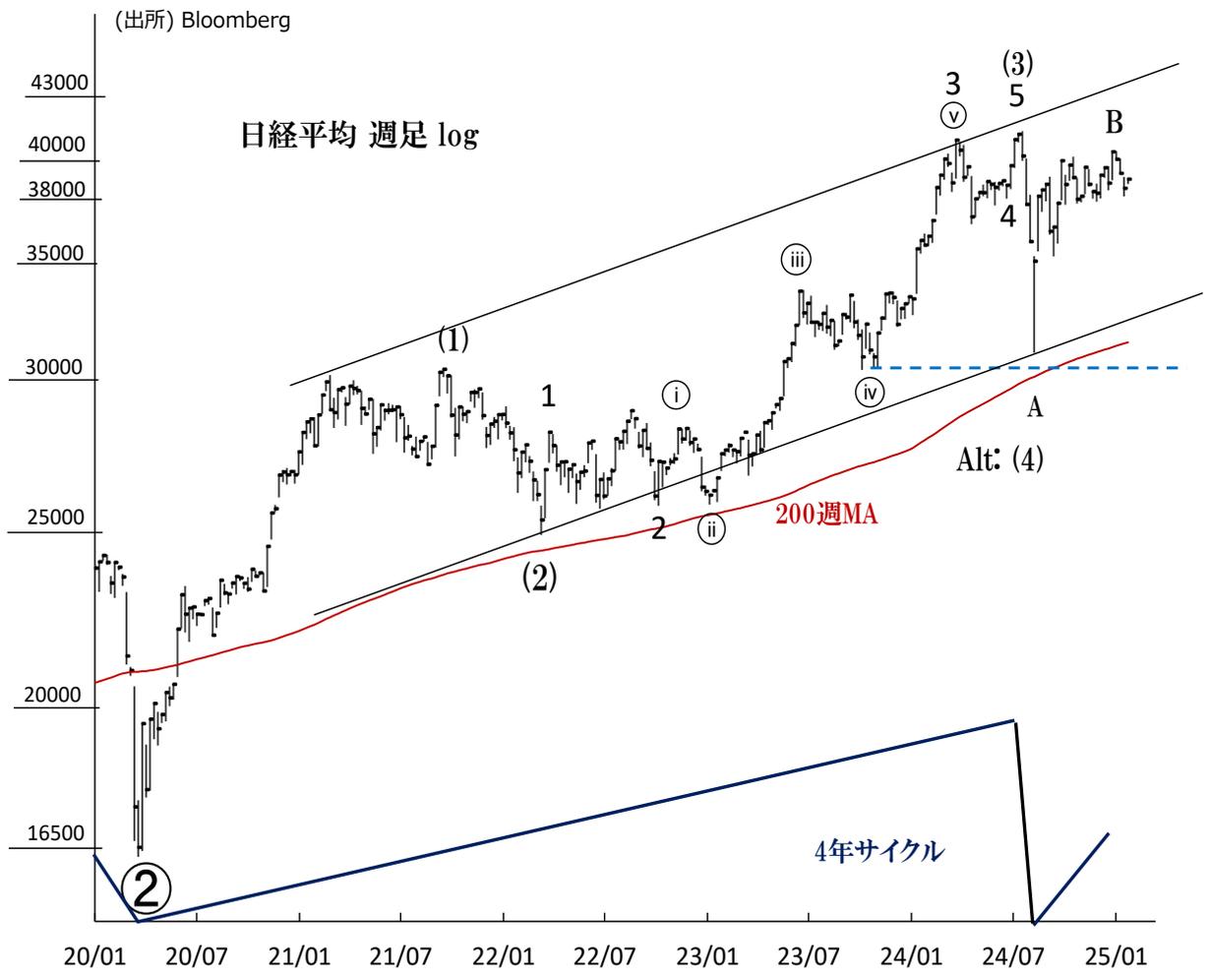
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

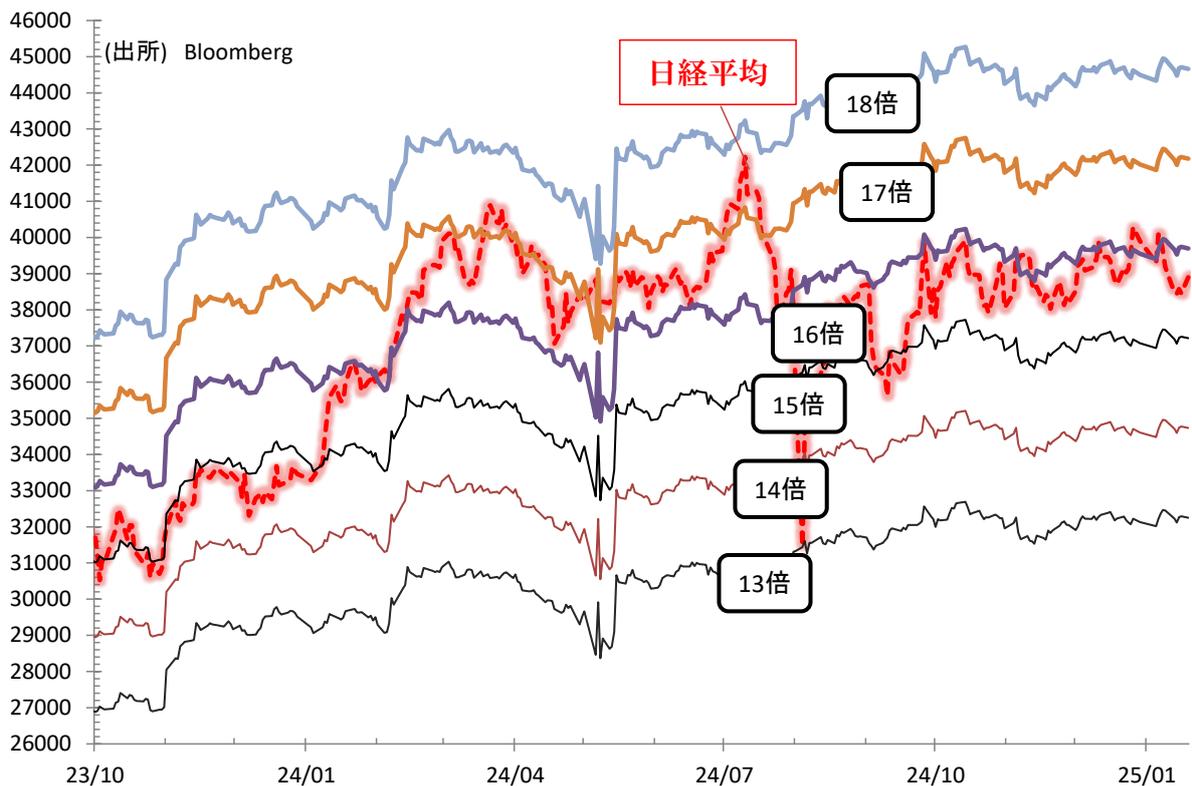
2025年、日経平均はインターメディアイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4万3000円-4万5000円]です。

この第(5)波上昇を以て、5年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の3年間』の完結)、以降はプライマリー第④波による停滞局面に移るとみています。

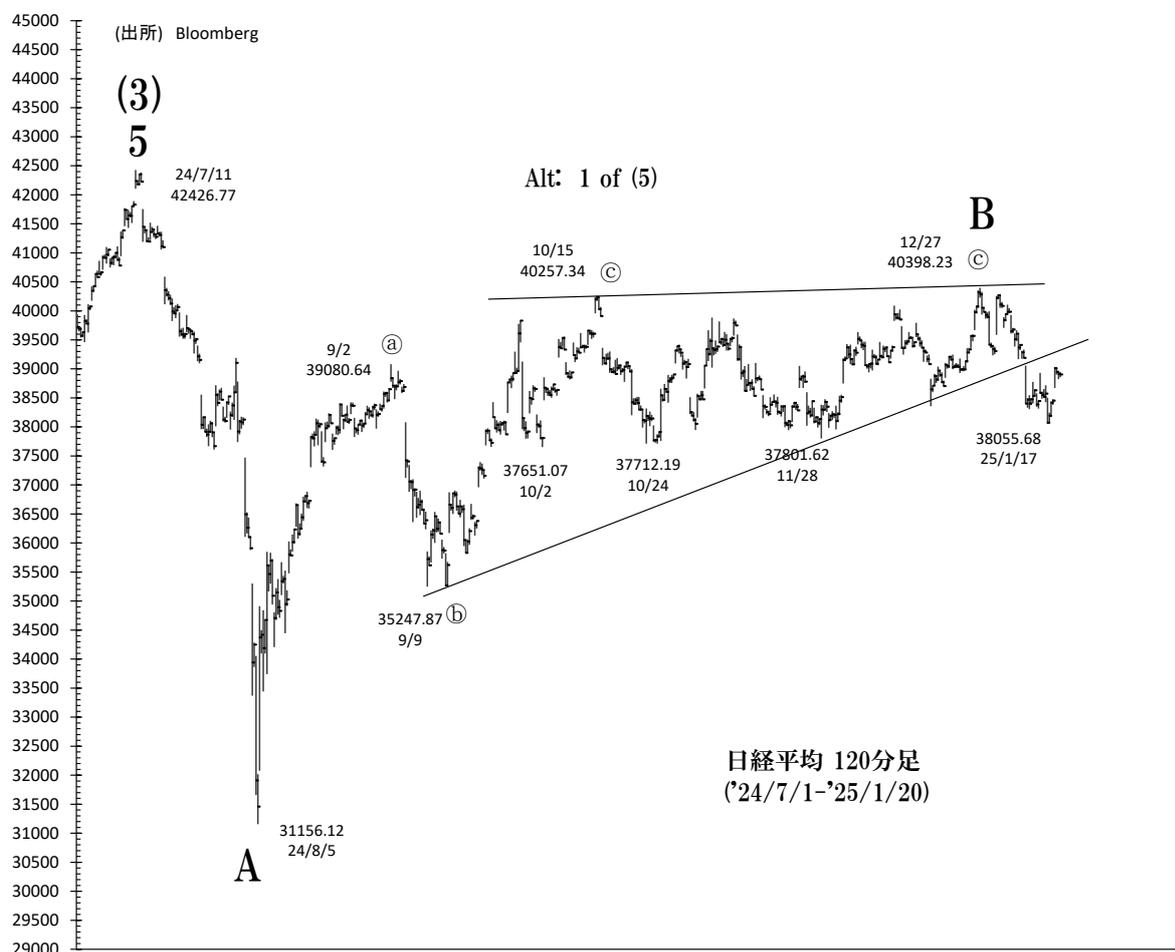
もっとも、24年7月以来のインターメディアイト級第(4)波の調整はまだ続いているとみられます。
この見方によると、第(5)波上昇が始まる前に、日経平均は一度大きく下押すこととなります。



[予想 PER 別の日経平均水準]



1月20日時点の日経平均予想EPSは2481円。昨年10月5日に付けた過去最高値2514円に近づいています。高値更新なるか、今後の動向が注目されます。



【時間足 エリオット波動分析】

40,398円(12/27 高値)からは、第(4)波中 C 波の下落局面が進行中とみられます。C 波は 24 年 8 月から約 5 カ月かけて形成された、上昇ウェッジから下放れ始めたところです。

第(4)波のパターンとして「シメトリカル・トライアングル」をイメージしています。この見方通りなら、C 波は三波構成 (a)–(b)–(c) となります。

第(4)波がトライアングルではなく他のパターンなら、例えば「フラット」のケースにおいては、C 波は五波構成になります。

いずれにしても日経平均は、昨年 8 月底に次ぐ二番底を模索する展開が続くでしょう。

今後数週間タームでは、24 年 10 月からのレンジ相場下限 (37,650~37,800 円) を試す展開となりそうです。さらに今後数カ月内をメドに、24 年 9 月安値の 35,247 円を一時的にも下回る可能性があります。

NYダウ



【日足 エリオット波動分析】

NYダウは、22年10月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を45,073ドル(12/4高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22年10月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22年1月～10月の(A)波は22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

今後数カ月内の下値ターゲットとして注目される水準は、24年4月安値(37,611ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことで、この時点におけるNYダウの高値からの下げ率は16.5%です。



【時間足 エリオット波動分析】

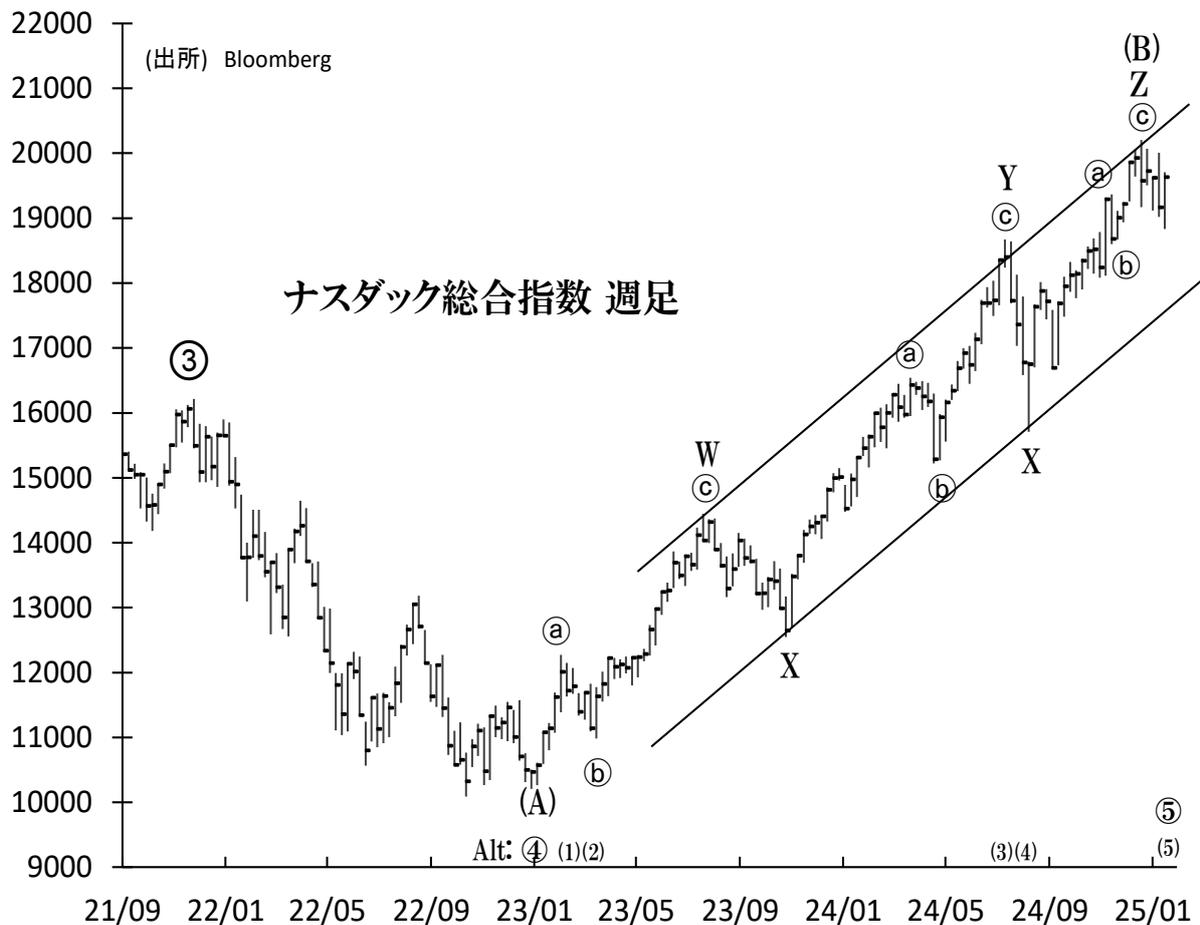
24年12月4日高値・45,073ドルを起点とする、最初の下げ波動(マルi波)は、42,146ドル(12/20安値)で終わりました。マルi波の下げ幅は2927ドル、下げ率は6.49%でした。

42,146ドルからのマルii波は「エキスパンディッド・フラット」(3-3-5)でしょう。1月17日には一時43,653ドルまで上昇しましたが、なおも上値試しとなる場合には、マルii波中、(a)波と(c)波が1:1.618を反映する水準[43,831ドル]を試すでしょう。

一方、今後42,544ドル(マド埋め)へ下押すようなら、それはマルiii波による下落局面スタートの合図とみることができます。ひとたびマルiii波が始まれば、その下げ幅と下げ率は、マルi波(上記)を凌駕する大きなものになるでしょう。

1月20日に始動した「**トランプ政権 2.0**」は、いきなり株安の洗礼を受けることになるのでしょうか？

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

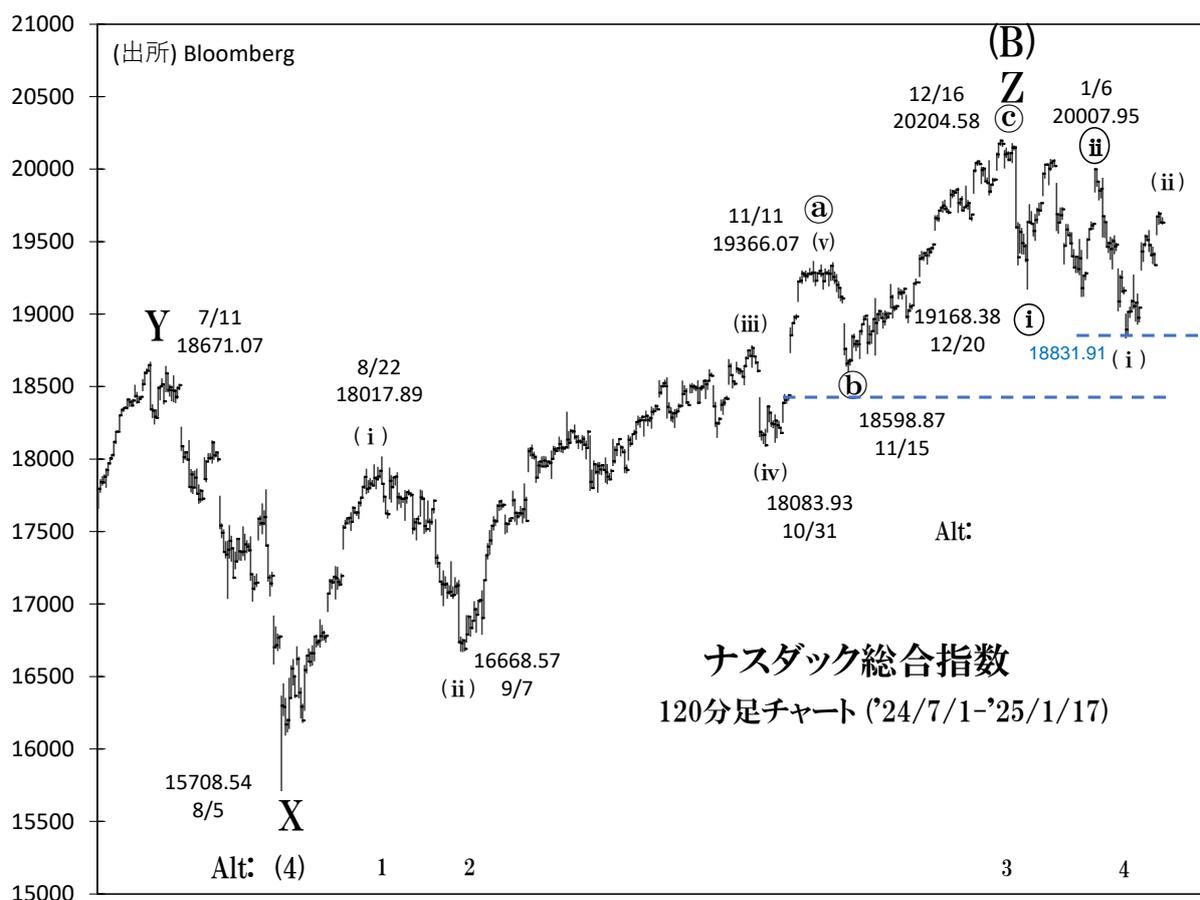
22年12月安値(10,207)以来の上昇は、④-(B)波による上昇とカウントされます。それは[不規則天井(イレギュラー・トップ)]であり、パターンは[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]です。

プリファード(優先)カウント

20,204(24/12/16 高値)を以て④-(B)波は完成し、そこから(C)波による下落に入った可能性があります。(C)波は(A)波(21年11月~22年10月、高値から37%調整)と同等か、それ以上のスケールの下げになるでしょう。

オルタナティブ(代替)カウント

22年12月安値からの「五波動」による上昇第⑤波は終わったか、終わりつつあります。第⑤波未完成であるなら、大きな調整局面を迎える前に、ナスダックは最終的な天井を付けるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

24 年 12 月高値以来の下落波動の構造は、1-2 波が連続するパターン([ワン・ツー、ワン・ツー])(マル i 波-マル ii 波、(i) 波-(ii) 波)と認識されます。

足元は第(ii)によるリバウンド終了、及び、第(iii)波による下降波開始を待つ局面です。

1 月 14 日-15 日のギャップ埋め(19,273)によって、第(iii)波スタートが示唆されます。それは「サード・オブ・サード」という強い下落になりそうです。

なおこの波動カウントは、20,007(1/6 高値)を抜かない限り有効です(20,007 を上抜くと、オルタナティブ・カウントにシフトします)。

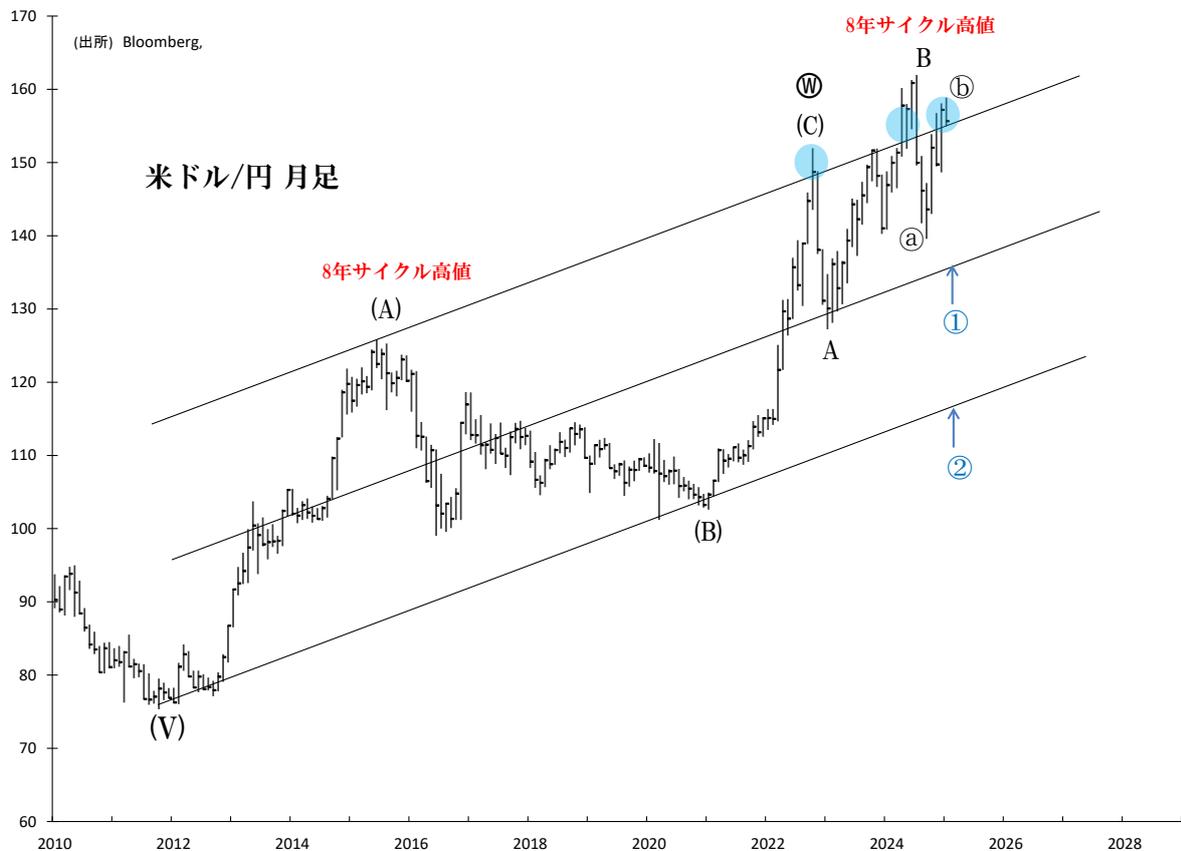
当面の下値ターゲットは、11 月 6 日のギャップを埋める水準[18,449]です。この近くには、フィボナッチ比率からの節目である[18,331](マル iii 波の下げ幅がマル i 波の 1.618 倍)が控えます。

【オルタナティブ・カウント】

24 年 8 月安値(15,708)以来の上昇は第(5)波です。この上昇トレンドは、五波動構成(1-2-3-4-5)であり、足元の安値から第 5 波の上昇が始まったか、始まりつつあります。

この第 5 波によってナスダックは、[20,400-21,300]へ上昇する可能性があります。なおこの波動カウントは、現行の下降波動が、昨年 8 月 22 日高値(18,017)とオーバーラップした時点で消滅します。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は135.655円(1月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.030円(1月)です。

なお足元水準は、2011年からの上昇チャネル上限を上回っていますが、このようにドル/円が長期トレンドから上方を逸脱するのは今回3回目です。過去2回のケースでは(円買い介入によって)極端な円安はまもなく修正されており、今回も同様の動きとなるかに注目です。



【週足 エリオット波動分析】

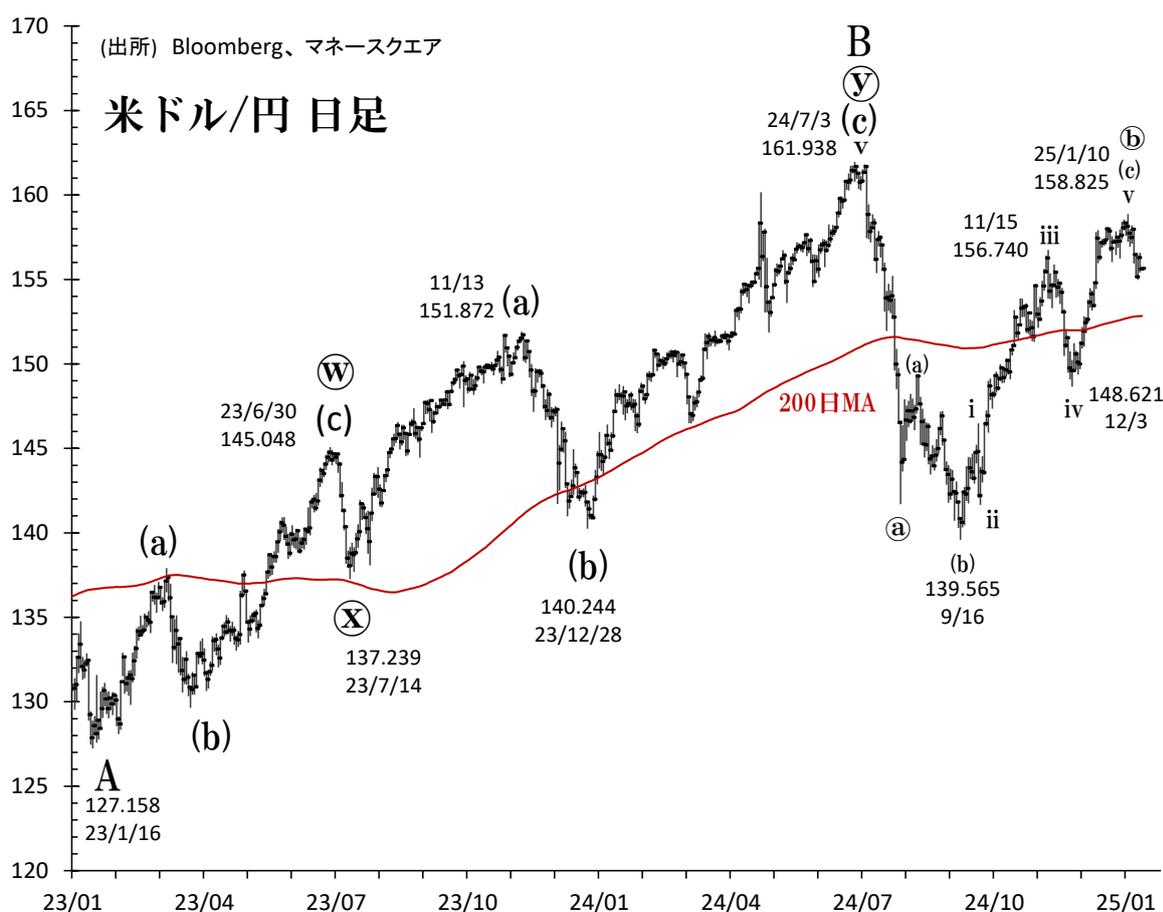
161.938 円(7/3)からは C 波によるドル安・円高が進行中であり、足元は副次波⑥波が終わったかを見定める局面です。実際、⑥波は終わり③波によるドル安・円高に入った可能性があります(後述)。

今年 2025 年中に、ドル/円は 139.565 円(9/16)を大きく下抜く展開を想定しています。

24 年 7 月高値を上抜いたときの考え方

メインシナリオ上、24 年 7 月高値(161.938 円)を上抜くことはない、とみています。しかし見通しと異なり、161.938 円を一時的にも上抜く場合には、「8 年サイクルの延長」の可能性が考慮されます。

8 年サイクルは、8 年±16 カ月(80 カ月～112 カ月)が本来の期間であり、今回のように 15 年 6 月から始まった 8 年サイクルは、本来は 24 年 10 月までに完結するべきものです(この点からも 24 年 7 月は 8 年サイクルに相応しいものです)。しかし 161.938 円を上抜くと—イレギュラーではありますが—8 年サイクルの期間は 10 年(120 カ月)まで延長されることでしょう。つまり 8 年サイクル高値を付けるのは、25 年半ばまでのどこか、と想定されます。



【日足 エリオット波動分析】

足元、日足は一目均衡表(示さず)の基準線(156.010 円)を下回りつつあります。加えて今まさに「雲のねじれ」(トレンド変調のポイント)に差し掛かり、従来の円安から円高へと基調が変わりやすいタイミングを迎えています。

139.565 円(9/16)からの⑥波-(c)波によるリバウンドは 158.825 円(1/10)を以て終了し、⑦波によるドル安・円高が始まった可能性があります。

ドル/円は当面、50日 MA[154.900 円処]、そして 200日 MA[152.800 円処]を試すことになりそうです。

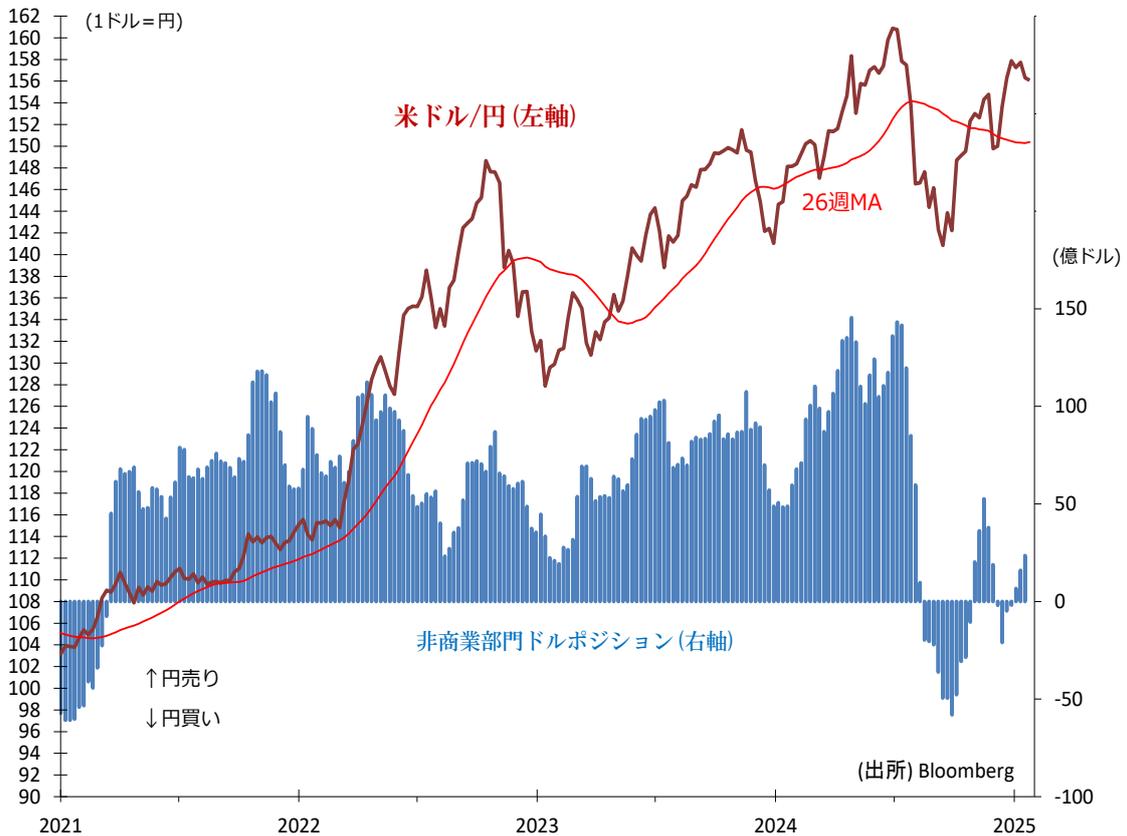
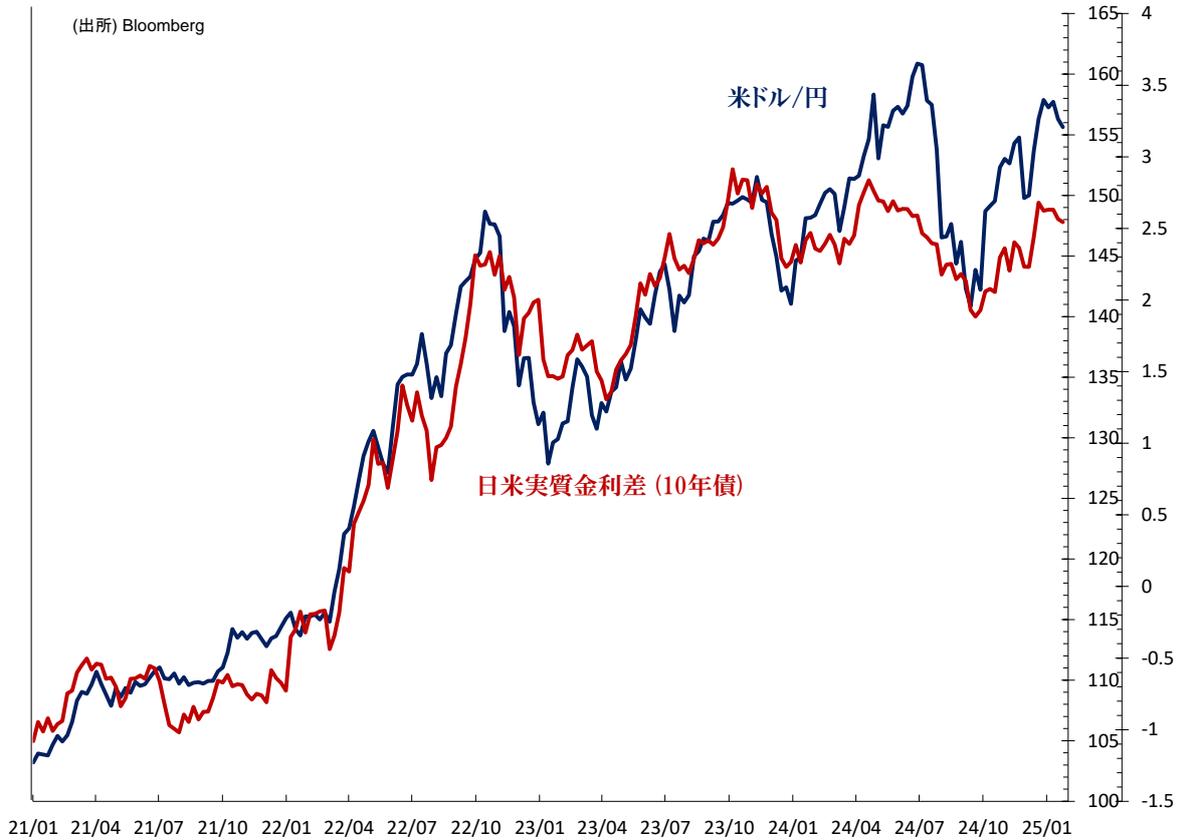
金利差からのドル/円推計値

1月15日に日本国債10年物(JGB10年)は一時1.255%と、13年半ぶり水準へ上昇しました。それは遠からず1.300%を試し、さらには1.515%-1.615%へ一段と上昇するかもしれません。この見方通りなら、米長期金利がさらに上昇しても日米金利差は広がらず、おのずとドル/円の上値も限られましょう。

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[150.026 円]です。

投機筋の円売り持ち高が2カ月ぶり水準に増加(2025年1月14日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)による円売り持ち高は3週連続で増加。前週の16億ドルから23.5億ドルとなり、24年11月19日(37.8億ドル)以来2カ月ぶり水準となりました。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)を以て、24 年 9 月からの B 波-ⓐ波が終わったか否かを見定める、重要な局面を迎えています。

107.750(1/6 安値)を維持する限り、再び高値を更新する可能性があります。この場合、次の節目を試すでしょう。

[110.311]…24 年 9 月起点のⓐ波において、第(iii)波までの高さと同第(iv)波の高さが、1:0.618 になる水準

[110.895]…B 波-ⓐ波と B 波-ⓐ波が、上昇幅において 1:1.382 になる水準

その一方 107.750 を下抜くと、C 波によるドル安が始まったという最初のシグナルが点灯します。日本時間 1 月 21 日の早朝には一時 107.917 と注目節目に接近しています。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 カ月で 13.2%減価しました。この A 波の期間と下落率は、C 波を考える上で参考にすべきでしょう。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
